

There's A Hole in The Bottom of The Seaで「リズム読み」しよう

佐々木 忠夫 (ささき・ただお 宮城県小牛田農林高校)

本校の生徒は、英語の音読がとても苦手です。それどころか、なかなか大きな声が出ません。

シェフからのひとこと そんな生徒でも英語の音を楽しめるようにこの実践を始めました。ひとつひとつの単語の発音よりもまずは英語のリズムを楽しむのが目的です。

「セサミストリート」でも歌われた幼児向けの歌 “There's A Hole in The Bottom of The Sea” で英語のリズムを楽しみましょう。

材料

1. There's A Hole in The Bottom of The Sea (リズム記号) プリント (資料参照)
※「リズム記号」は寺島メソッドの英音法による強弱記号で、以下のように作ります。
・内容語には大きな□を、機能語には小さな○をつける。
・難しい発音の単語にはカタカナを振る。
2. ペンなど机をたたくもの

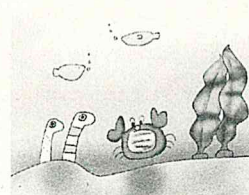
There's A Hole in The Bottom of The Sea

1. There's a hole in the bottom of the sea.
■ ○ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ ○ ○ ○ ○ □

There's a hole in the bottom of the sea.
■ ○ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ ○ ○ ○ ○ □

* There's a hole — there's a hole —
○ ○ □ ○ □ ○ ○ □

There's a hole in the bottom of the sea.
■ ○ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ ○ ○ ○ ○ □

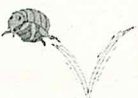


2. log in the hole in the bottom of the sea.
○ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ ○ ○ ○ ○ □

5. There's a fly on the frog on the bump on the log in the hole in the bottom of the sea.
■ ○ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ ○ ○ □

There's a fly on the frog on the bump on the log in the hole in the bottom of the sea.
■ ○ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ ○ ○ □

*



6. There's a flea on the fly on the frog on the bump on the log in the hole in the bottom of the sea.
■ ○ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ ○ ○ □

There's a flea on the fly on the frog on the bump on the log in the hole in the bottom of the sea.
■ ○ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ ○ ○ □

*

作り方

1. 1文毎に単語の発音を確認します。
※ 発音の難しい単語にはカタカナを振ってあります。それだけの確認でいいでしょう。
生徒にとって、連続するカタカナをきちんと読むのは意外と難しいようです。
2. 次に、音と音の同化、連結や音の脱落を説明して、プリントに書き込ませます。
There's a 「ゼアズ ア」は「ゼアザ」に、hole in 「ホール イン」は「ホーリン」などのように。
3. 1文毎に、リズム読みをします。
※ 机をベンなどでたたきながら、たたいた時に大きな□の部分を読みます。
※ 最初は、教員が手本を示します。次に、あとについてみんなで読みます。
4. 4～8人程度のグループ毎に練習を行います。
※ グループで机をたたくりズムを合わせる事が大切。
5. 後日、グループで「リズム読み」テストをします。
※ みんなの前に出てきて教卓をたたきながら行います。

「ハイできあがり!」
「おいしそう!」

最初は難しいと感じる生徒が多いのですが、何度も練習をしていると勝手に暗記してしまうようですし、楽しくなっていくようです。1年生でこれをやった生徒は、2,3年生になって廊下で私とすれ違うと、暗唱して見せてくれるときもあります。

展開 イタダキマース!

1. リズムに乗ってくるとたたき速さが速くなりますが、スタートは遅いかなと思うくらいで大丈夫です。
2. たたく速さをどこまで速くできるか、挑戦してみることもおもしろいと思います。
3. 英語の歌は必ずリズム読みをします。そうすると簡単に歌えるようになります。
4. 授業では教科書の本文も「リズム読み」をします。本文の暗記を強いなくても勝手に暗記してしまっています。

ゴチノウサマデシタ!



グループでのリズム読みのテストをし、合格か不合格だけで評価をします。基準は机をたたくりズムが合っていることと、たたいた時に強勢のある単語が読めていることです。また、期限以内であれば、何回挑戦してもOKです。

最初に挑戦しようとする勇気も大切です。それも加味しながら評価をします。テスト前は緊張していた生徒たちも、「合格」の声と聞くとホッとして大喜びをします。その達成感が次への意欲にもなります。

●まとめ

英語が英語らしく聞こえるのは個々の音の正確さではなく、英語の「(強勢の) リズムの等時性」です。日本語のリズムは「高低リズム」ですから、日本人はこの「リズムの等時性」を身につける必要があります。これができるようになることはリスニングやスピーキングの力もつけてくれます。

